



光・赤外線天文学大学間連携による 短期滞在実習プログラムの実施II

大朝由美子 (埼玉大学)

○高橋隼、高木悠平、本田敏志 (兵庫県立大学)、秋田谷洋 (広島大学)、
黒田大介、泉浦秀行、筒井寛典、関口和寛 (国立天文台)、橋本修 (ぐんま天文台)、
渡辺誠 (北海道大学)、諸隈智貴 (東京大学)、斉藤嘉彦 (東京工業大学)、
村田勝寛 (名古屋大学)、野上大作 (京都大学)、永山貴宏 (鹿児島大学)、

光・赤外線天文学大学間連携観測チーム

教育プログラムの立ち上げ

- 光赤外大学間連携事業では、研究とともに**教育の連携**も目指す。
- 2013年度から教育プログラムを開始した。
- 大学間連携の特色を活かしたプログラムを目指して、「**多地点分散型の短期滞在実習**」を企画した。
 - 学生等個人の希望に基づき、所属機関以外の望遠鏡や観測装置を利用する、もしくは、観測装置や観測システムの開発に関わる機会を提供する。
 - 「これまで撮像観測しかしたことがないが、分光観測を学びたい」「これから装置開発を行なうので実習を通して学びたい」といったニーズを想定。
 - 光赤外大学間連携ネットワークが持つ**多様な望遠鏡・装置・スタッフ**を人材育成に活かす。

プログラム概要

- **目的:** 学生や研究者のスキルアップ。
- **対象:** 光赤外大学間連携に参加する機関に所属していて、光赤外観測天文学の研究を行なっている大学院生・若手研究者
- **支援内容:**
 - 滞在のための旅費を支給（国内のみ）
 - 観測・解析または装置・システム開発に関する基本的なインストラクションを実施
- **滞在期間:** 数日～1週間程度
- **滞在可能機関・施設:** 10機関

実施状況、今後に向けて

■ 実施数:

- 2013年度 5件
- 2014年度（現時点） 2件

■ 内容:

- 観測システム・装置開発 3件
- 分光観測 5件

■ 今後に向けて:

- 光赤外大学間連携外部からの受け入れは、需要や実施体制を考慮して、判断したい。

